

[新パラオ通信]

パラオと私

高橋吉男

All about SWINE 61, 34-38

1. パラオと私

約10年前になりますが、私は2009年10月から2年間シニア海外ボランティアとして南の島パラオに派遣され、パラオ・コミュニティ・カレッジで畜産を教えていました。この間にパラオについて本誌オールアバウトスワイン(36, 37・38合併, 39, 40, 41号)に5回に分けてパラオ通信として寄稿させていただきました。

またパラオに行くことになり、編集者の方から、今度は新パラオ通信をとの指示があり書かせていただくことになりました。前回と重複するところも多々あるかと思いますが、相当年数が経って今回初めて読まれる方もおられるかと思うので、ご容赦ください。

2. なぜ又パラオに

私がまたパラオに行くことになった顛末から始めさせていただきます。パラオの農業局に勤務する日本人の獣医師と連絡を取る様になりました、食肉検査をしておられた方で、養豚の現場についてはあまり経験がなく、時々相談を受けていました。その方が帰国することになり、パラオの農業局から後継の獣医師の要請があったそうで、私を推薦していただいたことが事の始まりでした。妻共々パラオにはまたしばらく滞在したいという希

望があったので、もう一働きしてみようかと思ったからでした。

3. パラオでの出来事

昨年11月頃に要請はあったのですが、いざ具体的な話を始めてみると話が二転三転して進みません。これでは、ちがが明かない、ともかく行って話さなければ進まないだろうと思いました。コロナ禍でしばらくパラオにも行くことが出来なかったのも、ともかく行ってみようと思いで、5月末にパラオに渡りました。

行ってみたのですが、中々一筋縄では行きません。先ず言われたのは、今年度の予算が無くなったので、10月までは契約できないとの農業局長からの話でした。それでどうするのが決まりません、ともかく外国人ですので就労ビザが無ければ仕事は出来ません、ボランティア契約で無給でもビザが取れば(出来れば家賃は出して欲しいと付け加えましたが)9月まで仕事をして、10月から契約しましょうかとメールで提案しましたが、これには、返信がありませんでした。

7月に入って突然局長からメールが来ました。「予算が付いたので8月から契約できる」とのことでした。さて、思っていたより簡単に決まったなと感じたのですが、その後住宅や赴任旅費の事

など2、3の問い合わせをメールしたのですが、これには返信がありませんでした。パラオもコロナの影響で主要産業の観光客がすっかり途絶え、ダイビング関係の仕事に従事する日本人はほとんど帰国しています。その為、ダイビング関係の会社が確保しているアパートの空いた部屋を貸していただくことが出来たので、観光ビザで滞在できる最大期間3月間滞在してじっくり構えることにしました。しかし、進みそうで進まない、一歩進んだかと思うとまた壁にぶつかるといふ繰り返しは大変疲れます。

8月に入り、月末にはビザが切れるので、どうなっているのかと関係している知人に聞くと「外国人獣医師の雇用には大統領のサインが必要であること。雇用契約書は大統領に行っていて大統領のサインを待っている。だけど、大統領は今島にいないよ」と言われました。その後聞いたところによると、「大統領は現在3週間の休暇を取って家族連れでディズニーランドに行っている」と新聞に載っていたということでした。もともと、外遊の多い大統領で巷では「オフ・アイランド」状態が長くパラオに居ないと言われている人ですが、大統領が長期間のオフ・アイランドの時期に当たり、運が悪いことでした。3週間も留守にすれば仕事も沢山たまっているでしょう、何時私の書類に行きあたってくれるのでしょうか？という状態になりました。結局、結論が出ないまま、観光ビザで滞在可能な3ヶ月の間に契約が出来ず、8月末に帰国しました。

後は、契約書が出来て連絡を貰えるかどうか、ひたすら待つのみということになっています。お国柄の違いが良く判りました。

4. 最近のパラオ

私事はさておいて最近のパラオですが、最大の産業の観光がコロナの影響をもろに受けていて観光客が激減しています、パラオに行った5月には市中では観光客をほとんど見かけませんでした。8月に入り徐々に観光客の姿を見かけるようになりましたが、以前の賑わいはありません。その代わりと言うわけではないのですが。アメリカ兵が沢山いました。ウクライナ、中台の緊張の影響がパラオにも現れたのでしょうか？アメリカがパラオの重要性を再認識したのでしょうか。太平洋の地図を見ていただくと判るのですが（パラオの場所は日本の明石の真南で北緯7度、東経134度です）、南太平洋の南西の角に位置するので地政学的に極めて重要な位置を占めているように思えます。



(地球の歩き方・リゾートスタイル・パラオより)

米軍は離島にある日本統治時代の滑走路を整備したり、パトリオットの試射を公開したりしていました。観光客が絶え、ほとんどのホテルはガラガラでしたが、米兵さんの団体の宿泊で一息ついたところもあったようです。しかし、何しろ若く元気のある兵隊さんです。食事の量が半端ではなく食費がかさんで大変だったとの話も聞きました。国際緊張に日本も影響を受けたのでしょうか、日本の護衛艦の寄港もありました。艦内を公開する見学会をしていましたが参加者はほとんどが日本人でした。

5. パラオでコロナ発症

私事ですが、パラオ滞在中にコロナを発症しました。1日目は朝起きて鼻の奥に違和感があり少し熱っぽいので寝冷えしたのかと思っていました。2月に3回目のワクチンを接種していましたが、密な場所に行った覚えもなくまさかコロナとは思いませんでした。

翌日、どんどん悪化し喉が痛くなりこれは変だと思い国立病院に行きました。抗原検査で陽性でした。高齢ということで抗体の注射をしてくれました。手の甲からの静脈注射で、注射後30分の

経過観察があり帰宅して自宅療養でした。旅行者に対しても診療費が必要なかったことには驚きでした。症状には個人差があるとは聞いていましたが、私の場合はさほど高熱ではなく、ただ喉が猛烈に痛くて3晩は寝た気がしませんでした。又汗を多量にかくので、水が絶対必要なのですが2日間は喉の痛さで水を飲むのには一大決心が必要でした。5日ほどで治ったと思ったのですが、その後も日に何回か発熱がぶり返し結局回復に3週間ほどかかりました。

6. パラオの概略

日本の南3,200 km、フィリピンのミンダナオ島の東1,000 km、ニューギニアの北1,000 kmに位置するいわゆる絶海の島です。面積は500平方キロ弱で、鹿児島屋久島と同じ位です。人口は1万8千人ですが、れっきとした国連の一員です。第一次世界大戦後、日本が国際連盟委任統治領として36年間に渡り統治していました。パラオ語になっている日本語が1000位あると言います。島の数が350とも言われています。島の海岸はほとんどがマングローブの林です。岸辺までマングローブの緑でおおわれている風景は日本ではあま



(マングローブの岸辺)



(海中から芽生えたマングローブの苗木)

り見る事が出来ず、自然の豊かさを感じます。

7. パラオの動物

パラオの国獣はジュゴンですが先ず見ることは出来ません。海岸から川にかけては入江ワニがいます。時々波止場で昼寝をしています、人が怖いようですがすぐに逃げて行きます、犬が大好きなので人里へ来るそうです。野生化した豚もいます、その昔はパラオ人の男は野豚狩りが好きだったそうですが、ライフルの所持が禁止になってからはすたれたと言います。犬は沢山います。半分飼い犬なのですがほとんどが放し飼いで半野生状態です。昼間はまだ良いのですが、暗くなると一人でお出歩くのは怖くなります。結構かまれた人もいと聞きますので夜には繁華街以外は人通りがほとんど無くなります。今のところ狂犬病が無いのが救いです。

鶏が沢山います。放し飼いの鶏かと思っていましたが、全くの野生です。図鑑などで見る原種の赤色野鶏そっくりな色合いの鶏もいます。朝は夜明け前から鳴き出しますが、夜中にも時を作ることがあります、そのときには付近の他の雄鶏も対抗して時を作るので賑やかです。慣れないと寝不



(住宅地にいる野生の鶏たち)

足になります。鶏の主要な餌は人の残飯の様です。人の住んで居ない場所ではほとんど見かけません。捕まえられて闘鶏に使われる雄もいます。パラオの男たちは闘鶏が大好きです。鶏たちは時を告げることから昔から敬われていて、パラオ人は決して食べません。

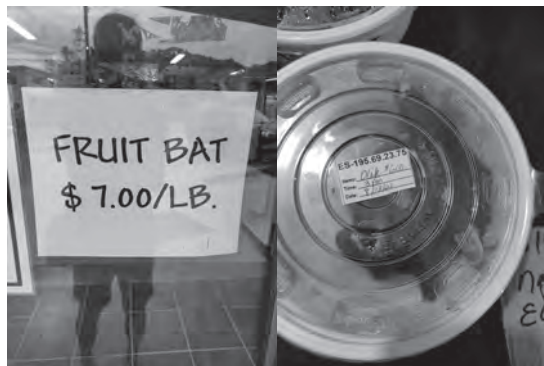
8. 食べ物

フルーツバット（蝙蝠）のスープが美味しいということですが私は食べたことがありません。乱獲でガムなどでは椰子ガニとともに絶滅したと言われていますが、パラオではいまだに食べることが出来ます。

今回行ってバナナの美味しさに目覚めました。バナナは芭蕉科の草で木ではないのです。一株に



(椰子の実の胚乳を喜んで食べる犬)



店頭の蝙蝠の宣伝

夜店で売っていた蝙蝠のスープ



(様々な熟し具合のバナナ)

多くの房の実がなりますが、生えている内は黄色くなりません、収穫して早くても3日位、遅いと10日位たって黄色く色が変わり熟してきます。週に2、3回位青いバナナを買って順に熟すのを待って食べます。昔よく食べていた、お店で熟れたバナナは売れ残りでありあまり良いものではなかったのです。熟し始めはさわやかな酸味が感じられ、完熟してくると皮が紙のように薄くなり大変甘くなります。完熟バナナを食べ慣れると日本で売っているバナナを食べられなくなり困ります。

9. パラオの豚

現在パラオでは70軒位で豚を飼育していて、総計は700頭位(子豚を含めてです)です。パラオではアメリカから冷凍豚肉が安く輸入されスーパーには沢山並んでいます。価格は100g当たり1米ドル(パラオの通貨は米ドルです)位です。地元産の豚肉はほとんど流通していません。



(アメリカ産冷凍豚肉)

10年ほど前に台湾の援助で小規模ですが湯剥ぎの出来る、近代的な屠畜施設が作られ稼働しています。屠畜場までの運搬が確立していないのがネックになっていますが、衛生的な処理をされる豚肉が増えています。この食肉検査の関係もあって獣医師を雇用したいのでしょう。

パラオでは豚は生体で取引されています。相場は1ポンド3~4ドルと10年前の倍近くなくなりました。120kgがほぼ267ポンドですから。1ポンド4ドルで1,068ドルです。1ドル115円として12万2,820円。枝キロ当たり1,555円結構な値段です。現在のドル相場では2,000円位になります。パラオでは豚は冠婚葬祭には欠かせないものです。特に亡くなった方のステータスによって適当な大きさの豚を屠って参列者に供するのが習わしになっているからです。

パラオの概略についてご紹介しました。もしこの先パラオで働くことが出来たら、パラオでの出来事、新発見などについてAAS上でお伝えできると思いますが、そうでなければ新パラオ通信は一回でおしまいになってしまうかもしれません。